

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成29年2月16日 (2017.2.16)

【公表番号】特表2016-521136(P2016-521136A)

【公表日】平成28年7月21日 (2016.7.21)

【年通号数】公開・登録公報2016-043

【出願番号】特願2015-555196(P2015-555196)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/58 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/58

【手続補正書】

【提出日】平成29年1月12日 (2017.1.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

インプラントに連結されるように構成されたキャップであって、前記キャップが、少なくとも 1 つの側壁を有する殻を含むキャップ本体であって、前記少なくとも 1 つの側壁が、少なくとも第 1 の内面と、第 1 の方向に沿って前記第 1 の内面から離間した第 2 の内面と、を画定し、前記第 2 の内面が前記第 1 の内面に実質的に対向し、前記キャップ本体が、前記インプラントの少なくとも一部を受容するような寸法であるキャビティを更に含み、前記キャビティが前記インプラントの前記少なくとも一部を受容すると、前記殻が第 1 の位置と第 2 の位置との間で弾性的に屈曲し、前記第 1 の内面及び前記第 2 の内面がそれぞれ、前記キャビティを部分的に画定する、キャップ本体と、

前記少なくとも 1 つの側壁によって画定される取付機構であって、前記取付機構が、第 1 の取付部材と、第 2 の取付部材と、を含み、前記第 1 及び第 2 の取付部材がそれぞれ、前記少なくとも 1 つの側壁から実質的に前記第 1 の方向に沿って延在する、取付機構と、を備え、

前記殻が前記第 2 の位置にあるときに、前記取付機構が、前記インプラントの前記少なくとも一部を前記キャビティ内に捕捉するように構成された、キャップ。

【請求項 2】

前記第 1 の取付部材が、前記第 1 の内面から延在し、前記第 2 の取付部材が、前記第 2 の内面から延在する、請求項 1 に記載のキャップ。

【請求項 3】

前記第 1 及び第 2 の取付部材が、前記インプラントの前記少なくとも一部が前記キャビティ内に捕捉されるときに、前記インプラントのそれぞれの骨対向面に当接するように構成された、請求項 1 に記載のキャップ。

【請求項 4】

前記第 1 及び第 2 の取付部材が、前記第 1 の方向に沿って互いに向かい合っている、請求項 3 に記載のキャップ。

【請求項 5】

前記第 1 及び第 2 の取付部材が、実質的に前記第 1 の方向に沿って互いに向けて延在する、請求項 3 又は 4 に記載のキャップ。

【請求項 6】

前記少なくとも１つの側壁が、前記第１の面を前記第２の面に接合する第３の面を画定する、請求項３～５のいずれか一項に記載のキャップ。

【請求項７】

前記キャップ本体が、前記キャビティ内に延在する第１の開口を画定し、前記インプラントの前記少なくとも一部が前記キャビティによって受容されるときに、前記インプラントの一部が前記開口を通して延在する、請求項１に記載のキャップ。

【請求項８】

前記キャップ本体が更に外殻を含み、前記殻が内殻であり、前記外殻が前記キャビティを画定し、前記キャビティが前記インプラントの前記少なくとも一部を受容すると、前記第１及び第２の面が互いに向かって移動するように、前記内殻が屈曲する構成である、請求項１に記載のキャップ。

【請求項９】

前記キャップ本体が第１の端部と第２の端部を含み、前記キャビティが前記第２の端部内に前記第１の端部に向けて延在し、前記少なくとも１つの側壁が前記第１の端部から延在し、前記少なくとも１つの側壁が前記第１の端部に対して可撓性である、請求項１に記載のキャップ。

【請求項１０】

前記殻が前記キャビティを画定し、前記キャップ本体が、前記キャビティ内に延在する第１及び第２の開口を画定し、前記キャビティ並びに前記第１及び第２の開口が、前記キャップ本体を通して前記第１の方向に実質的に直交する第２の方向に沿って延在するチャンネルを画定し、前記少なくとも１つの側壁が、第１の側壁と、前記第１の側壁から前記第１の方向に沿って離間した第２の側壁と、を含む、請求項１に記載のキャップ。

【請求項１１】

前記内殻が、前記インプラントによって画定される開口によって受容されることになる寸法であり、前記取付機構が、前記少なくとも１つの側壁の外面であり、前記内殻が前記開口に挿入されるときに、前記外面が前記インプラントと摩擦嵌合を形成するように構成されている、請求項８に記載のキャップ。

【請求項１２】

インプラントに連結されるように構成されたキャップであって、前記キャップが、  
内殻及び外殻を含むキャップ本体であって、前記内殻が、少なくとも１つの側壁を有し、  
前記少なくとも１つの側壁が、少なくとも第１の内面と、第１の方向に沿って前記第１の内面から離間した第２の内面と、を画定し、前記第２の内面が前記第１の内面に実質的に対向し、前記内殻が外面を含み、前記外殻が、前記外面に対向する内面を含み、前記キャップ本体が、前記内殻によって画定されたキャビティを更に含み、前記キャビティが、前記インプラントの少なくとも一部を受容するような寸法であり、前記内殻は、１）前記キャビティが前記インプラントの前記少なくとも一部を受容すると、第１の位置と第２の位置との間で、また、２）前記キャビティが前記インプラントの前記少なくとも一部を受容すると、前記外殻に向けて外側へ、弾性的に屈曲するように構成されている、キャップ本体と、

前記少なくとも１つの側壁によって画定される取付機構であって、前記取付機構が、第１の取付部材と、第２の取付部材と、を含み、前記第１及び第２の取付部材がそれぞれ、前記少なくとも１つの側壁から実質的に前記第１の方向に沿って延在する、取付機構と、を備え、

前記内殻が前記第２の位置にあるときに、前記取付機構が、前記インプラントの前記少なくとも一部を前記キャビティ内に捕捉するように構成された、キャップ。

【請求項１３】

前記内殻が前記キャビティを部分的に画定する天井面を含み、前記第１及び第２の取付部材のそれぞれが、少なくとも部分的に前記天井面に対向する当接面を画定する、請求項１２に記載のキャップ。

【請求項１４】

インプラントに連結されるように構成されたキャップであって、前記キャップが、少なくとも１つの側壁を有する殻を含むキャップ本体であって、前記少なくとも１つの側壁が、少なくとも第１の内面と、第１の方向に沿って前記第１の内面から離間した第２の内面と、を画定し、前記第２の内面が前記第１の内面に実質的に対向し、前記キャップ本体が、前記インプラントの少なくとも一部を受容するような寸法であるキャビティを更に含み、前記キャビティが前記インプラントの前記少なくとも一部を受容すると、前記殻が第１の位置と第２の位置との間で弾性的に屈曲し、前記殻が前記キャビティを部分的に画定する天井面を含む、キャップ本体と、

前記少なくとも１つの側壁によって画定される取付機構であって、前記取付機構が、第１の取付部材と、第２の取付部材と、を含み、前記第１及び第２の取付部材がそれぞれ、前記少なくとも１つの側壁から実質的に前記第１の方向に沿って延在し、前記第１及び第２の取付部材のそれぞれが、少なくとも部分的に前記天井面に対向するそれぞれの当接面を画定する、取付機構と、を備え、

前記殻が前記第２の位置にあるときに、前記取付機構が、前記インプラントの前記少なくとも一部を前記キャビティ内に捕捉するように構成された、キャップ。

**【請求項１５】**

前記キャップ本体が、前記キャビティ内に延在する第１の開口を画定し、前記インプラントの前記少なくとも一部が前記キャビティによって受容されるときに、前記インプラントの一部が前記開口を通して延在する、請求項１４に記載のキャップ。